

福島第一原子力発電所 プロセス主建屋における当社社員の 身体汚染に関する再発防止対策の追加について

< 参 考 資 料 >
2021年4月22日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 2021年3月10日、発電所構内プロセス主建屋において水移送配管のライン調査を行っていた当社社員が身体汚染し、翌日（3月11日）、ホールボディカウンタを受検し、内部被ばく線量が記録レベル（2 mSv）未満であることを確認しています。
- 本件については、以下の再発防止対策を講じることとしております。（3月25日にお知らせ済み）

再発防止対策 (既報)

- ①危険エリア（高線量、高汚染エリア、暗所等の内で安全な作業環境が確保されていないエリア）には複数名にて出向するルールを策定する
- ②プロセス主建屋の当該移送配管排水先までの移動動線に行先表示を取り付ける（発光色により視認性を上げる）
- ③今後、プロセス主建屋内の照明について設置する
- ④放射線防護のふるまいに関する教育資料に追加する

- その後、放射線防護や作業管理面等について、さらに万全を期す観点から、以下対策を追加しましたのでお知らせします。再発防止を徹底し、安全最優先で作業を進めてまいります。

追加対策

- ⑤作業予定表・防護指示書に線量当量率、ダスト濃度、表面汚染の記載項目を設ける
- ⑥現場体制等、作業予定表・防護指示書の内容に変更が生じた場合、変更内容を反映し再度周知を行う
- ⑦当該エリアに避難経路を表示する

【参考】発生当日の時系列

■ 時系列3/10(水) 当該社員が単独作業に至った時系列

8:40頃 業務内容打合せ（チームミーティング）

9:50頃 当社社員（汚染者（以下、当該社員））と他の社員1名の2名で、プロセス主建屋周辺（屋外）の移送配管ライン確認を開始

11:30頃 当該社員より上司へ、プロセス主建屋周辺（屋外）の移送配管調査結果を電話で報告。
（12:40頃 事務所自席に戻る）

12:50頃 当該社員は、プロセス主建屋（屋内）の調査のために1名で現場へ出向
※当該社員は、午前中の同行者が別件で午後から不在となることから、1人で現場対応を行うものと認識していた。なお、プロセス主建屋は暗所である事は十分理解していたが、これまでも経験のあるエリアでの調査であることから1人で調査に向かった。

13:00頃 上司は、プロセス主建屋内調査のために、当該社員の他に、午前中に同行していた社員とは別の社員1人を選出。

13:20頃 上司は、当社社員に午後の同行者について伝えようとしたが、不在が継続したことから、電話にて居場所確認。（免震棟にてプロセス主建屋への入域準備中であることを確認）

上司は、入域経験のあるエリアであること、ヘッドライトと懐中電灯を持っていること、本人に経験があり問題無い旨の意思を確認したことから、単独での調査を了解した。

【参考】発生当日の時系列

■ 時系列3/10(水) 当該社員のプロセス主建屋内での時系列

13:40頃 当該社員はプロセス主建屋に入域、配管調査開始

13:55頃 1回目のアラーム鳴動

- 配管の排水先まで到着
- 対象配管及びピットの写真撮影
- 2回目のアラーム鳴動
- 調査完了。建屋出口へ移動開始
- 帰りのルートが分からなくなる（焦りが生じる）
- 3回目のアラーム鳴動（全面マスクの曇り発生）
- 4回目のアラーム鳴動
- 上司へ電話連絡（打合せにより対応出来ず）
- 5回目のアラーム鳴動

詳細な時間は不明

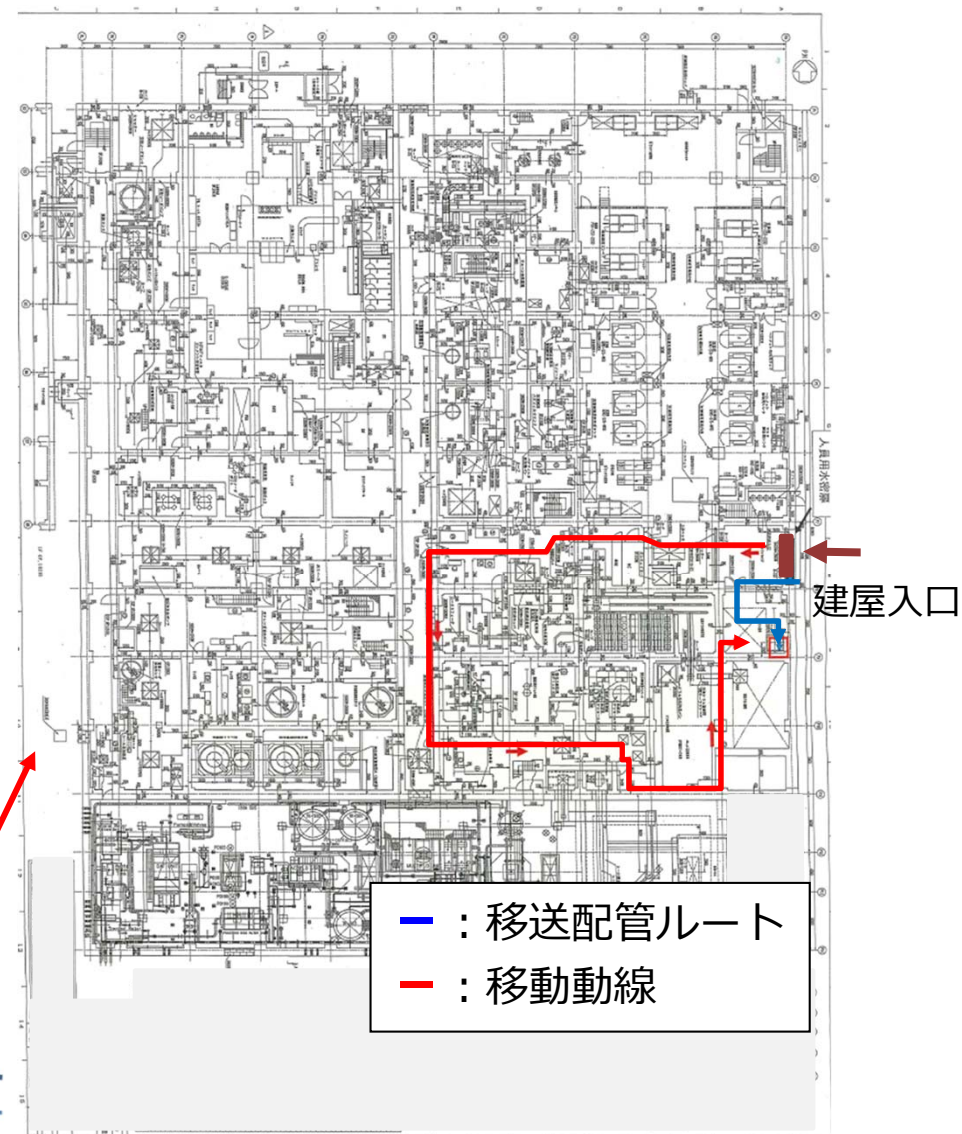
14:40頃 同じグループのメンバー、復旧班長へ電話連絡（その場に留まり待機とした）

16:00頃 当社社員が現場で合流

16:10頃 プロセス主建屋外に退域

【参考】プロセス主建屋内の移動動線【3月25日中長期RM会見資料スライド2】

- 当該社員
当社社員
男性 50歳代
1F 経験 約9年
- 装備
全面マスク、Yヘルメット、カバーオール、上下作業着、布手袋、ゴム手袋(2重)、靴下(2重)、Y短靴、クールベスト、ヘッドライト、懐中電灯(手持ち)



プロセス主建屋内配置図、移送配管経路図